

## ASCE マキューソン会長一行との交流報告

フェロー会員 土木学会会長 石井 弓夫  
 フェロー会員 専務理事 古木 守靖

フェロー会員 副会長 国際委員会 委員長 日下部 治  
 正会員 国際室長 片山 功三

6月14日～15日、ASCE(アメリカ土木学会)のマキューソン(William F. Marcuson, III)会長一行の訪日の折に、意見交換会および同会長による特別講演会を開催し、交流を深めたので、ここにその概要を報告する。

## 1. ASCE との意見交換会

意見交換会では、ASCE 側の要望もあり、(1)グローバル化への対応(将来展望や教育のあり方)、(2)土木技術者の資格認定、(3)インフラの通信簿(Report Card)の3つのトピックスについて、土木学会における取組みの一端を説明し、それに基づき意見交換を行った。



写真-1  
 ASCE 会長一行を迎えて(中央、石井会長の向かって左隣がマキューソン会長)

## ●意見交換会出席者

## 【ASCE】

Dr. William F. MARCUSON, III ・会長、Mr. Patrick J. NATALE ・専務理事、Mr. Andrew W. HERRMAN ・理事、Ms. Meggan FARRELL ・国際部長

## 【JSCE】(上記以外、敬称略)

山田正・水工学委員会委員長(Moderator)、奥村忠彦・技術者資格委員会幹事長、宮本和明・会長提言特別委員会幹事長、松田光弘・参事

## (1) グローバル化への対応(将来展望や教育のあり方)

JSCE からは、ASCE が 2006 年 6 月に開催したサミットでの議論を取りまとめたビジョン(「THE VISION FOR CIVIL ENGINEERING IN 2025」)と同様に、2006(平成 18)年度の会長提言特別委員会が発表したレポート「The Future of Civil Engineering and the Role of Civil Engineers」を紹介し、これに関連して、人口減少局面におけるインフラ整備のあり方、土木技術者の平和への貢献、The Body of Knowledge

(BOK:基礎知識体系)に対する日米の考え方の類似性、将来世代への期待などについて説明した。

ASCE からは、次のような発言・コメントがあった。

アメリカも日本と同様に人口の高齢化が進んでおり、60 歳以上の退職者が増えている。技術者教育では、「Math(数学)」や「Science(科学)」に加えて、「Humanities(人文)」や「Social Science(社会科学)」が重要であり、知識とスキルに経験をもあわせもった技術者の育成に取り組んでいる。したがって、BOK では、「Knowledge」、「Skill」、「Attitude」を特に重視している。

さらに、「一般市民とコミュニケーションを図ること」や「リーダーシップ」も大切である。若い世代に「リーダーシップ」を教えることは容易ではないが、プロフェSSIONALとしての手本や社会での役割、貢献を示し、そして活動することによって、若い世代の興味と情熱を引き出すことが重要である。

なお、この分野に関して土木学会の委員会との今後の情報交換の希望があり、委員会の紹介を行った。

## (2) 土木技術者の資格認定

JSCE からは、2006(平成 18)年度の会長提言特別委員会が取りまとめた「良質な社会資本整備と土木技術者に関する提言」について、価格競争の激化と技術力低下の環境のなかでいかに公共事業の品質を確保し、技術力を向上させるかが喫緊の課題であること、そして対策の 1 つとして JSCE が行おうとしている資格制度の内容と改善の方向などを説明した。また、質疑のなかで JSCE の会員数の減少と対策などを説明した。

これに対して、ASCE からは以下のような発言があった。技術者資格制度については、土木学会の資格を法的に効力のあるものにするとはよいのではないかと。Code(基準類)に土木学会資格を入れることができれば、一朝一夕にはいかないかもしれないが、将来的には展望があるのではないかと。アメリカでは、技術者資格は州ごとに決められているが、American Association of Engineering Societies(AAES)が全国的に、技術者の資格を管理・推進するリーダー的な存在であり、ASCE は常に意見を出し、影響を与えている(注: AAES は日本工学会に相



写真-2 意見交換会の模様

当するアンブレラ組織である)。

また、JSCE における会員の減少に関して、高年齢会員の制度の検討、若年会員の減少の具体的な分析に基づく対策検討

の必要性など実証的なアプローチの必要性についてコメントがあった。ASCE のロサンゼルス支部では、退職者や高齢者の会員を対象とする「Life Member Forum」を立ち上げ、活動しており、今後これを国内的に広めていきたいとのことである。

### (3) インフラの通信簿 (Report Card)

JSCE からは、2007 (平成 19) 年度の会長提言特別委員会が取り組んでいるテーマ「わが国における社会資本の現状」に関連して、活動の動機および目的、テーマ設定の背景、活動スケジュール、評価のスコープ(範囲)、活動にあたり ASCE や ICE などが作成した「Report Card (以下、RC)」を参考にしていること、などについて説明した。

ASCE からは以下のような発言があった。ASCE が発行する RC は、社会へインフラの状況を伝える良い材料となっている。たとえば、知識、能力、想像力をもっている産業界のリーダーが RC を基に社会へ提言をする。彼らは、Passion (情熱)、Articulation (明確な表現)、Punch (迫力) をもって話すことができるため、社会への良い伝達者となる。また、議員が RC の評価を基に議会へインフラ整備の必要性を訴える。その後ろで、土木技術者は、インフラ整備の担当者として、批判があった場合にいつでも答えることができるように回答を準備している。このような形で、一般市民はインフラ整備の現状と必要性を把握することができる。

インフラ整備において、問題は資金の調達である。アメリカは非常に苦しい財政下にあり、インフラへ十分な投資を期待することはできない。そこで、ASCE としては「Innovation」を考え、提案する。RC の評価については、データを集め(全国の土木技術者にボランティアで行ってもらっている)、分析し、評価をする。細かいところは、確かに主観が入るが、それは専門技術者の判断としてのものである。

## 2. マキューソン会長による特別講演会

15 日には、本会主催、(独) 港湾空港技術研究所、(社) 地盤工学会共催により、「パナマ運河の現状と改築～ASCE 会長 講演会～」を土木学会講堂で開催した。

ハリケーン・カトリナおよびパナマ運河に関する講演概要については別の機会に譲るが、ASCE の取組みの現状について以下に紹介する。

### ASCE の最近の取組み

マキューソン会長からは、ASCE が抱えている課題として、(1) 中国、インド、東ヨーロッパの多くの国々の市場参入による競争下で、いかに、アメリカの将来の土木技術者を開発途上の国々より高いサラリーを得るだけの価値あるものにするか、(2) いかに、プロフェッショナルであり、かつリーダーシップやコミュニケーション能力に優れた土木技術者を育成するか、(3) 将来のエンジニアリング教育はどうあるべきか、(4) インフラの状態が悪化するなかで、土木技術者は公共政策にどう関与すべきか、といった観点について講演があった。特に、公共政策への関与については、50 州すべてで ASCE のメンバーが州政府の運輸局長官になることを望んでいることや、ASCE の Report Card に関して 1 ヶ月に 1 回くらい主要紙に記事として出してもらっているとの説明があった。

さらに、倫理について言及し、ASCE の会員が非倫理的な行動をすると、委員会に喚問され、最も重い処分は学会からの追放であるとのことであった。



写真-3 マキューソン会長講演会の模様

写真-4 石井会長からマキューソン会長へ記念品の贈呈



## 3. おわりに

意見交換会での内容は多方面にわたっているが、いずれも土木学会として積極的にかかわっていくべきテーマであり、社会への直接的貢献の面からも成果が求められるものも多い。学会本部としても今回の意見交換の成果を学会運営に反映させていきたいと考えている。

最後に、ASCE のホームページには、意見交換会で取り上げたトピックスに関する資料(「THE VISION FOR CIVIL ENGINEERING IN 2025」など)が掲載されているので、ぜひご覧いただきたい。